

(注) 解答はすべて解答用紙の指定された場所に記入しなさい。

一次の設問に答えなさい。

問一 提示されている語句の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の内から一つずつ選び、番号で答えなさい。

(1) 更迭

- ① できは決してよくないが、仕事そのものが早いこと
- ② 危険が迫っていること、差し迫った状況にあること
- ③ ある地位・役目にある人を他の人と代えること
- ④ 思想・行動などの自由を制限すること
- ⑤ 物事がうまく進まず、しくじること

(2) 剽窃

- ① 他人の財物をひそかに盗み取り、自分のものにしてしまうこと
- ② 他人の作品や論文を盗んで、自分のものとして発表すること
- ③ 他人の金品を暴力や脅迫などの手段で奪うこと
- ④ 他人の成功や地位を勞せず横取りすること
- ⑤ 他のものをまねること、似せること

(3) 凄惨

- ① 言葉巧みに嘘を言って、相手に本当だと思わせること
- ② 競技や試合などで、わずかな差により負けること
- ③ 物事がうまくかみ合わないこと、食い違うこと
- ④ 趣向や発想などが際立って新しいこと
- ⑤ 目を背けたくなるほど痛ましいこと

(4) 訴求

- ① 差し引いて、お互いに損得がないようにすること
- ② 過去にさかのぼって影響・効力を及ぼすこと
- ③ 訴え出ること、裁判を申し立てること
- ④ 消費者の購買意欲に働きかけること
- ⑤ 平和などを強く願うこと

問二

提示されている意味を表す語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

(1) ある事柄が起こる確実性や、ある事柄が真実として認められる確実性の度合い

- ① 可塑性
- ② 一過性
- ③ 客観性
- ④ 蓋然性
- ⑤ 偶然性

(2) 努力を惜しまない

- ① のつぴきならない
- ② やぶさかでない
- ③ おぼつかない
- ④ やんごとない
- ⑤ えげつない

(3) 社会通念上また法律上、正しく道理にかなっていること

- ① メリトクラシー
- ② ダイプロマシー
- ③ レジテイマシー
- ④ キャプテンシー
- ⑤ デモクラシー

問三 提示されている語句の用例として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

(1) 惹起

- ① 大きな不況で新規事業が惹起する
- ② 経営陣が時流に乗じて惹起する
- ③ 独立問題が民族紛争を惹起する
- ④ 株価の急落によって惹起する
- ⑤ 研究開発が隘路に惹起する

(2) 色を正す

- ① 彼は裏切られたと知って呆然とし、色を正した
- ② 彼は気に入られようと色を正した
- ③ 彼は色を正して怒り出した
- ④ 彼は色を正して陳謝した
- ⑤ 彼は原稿料に色を正した

(3) 敷衍

- ① 事件を都合の良いように敷衍して報道する
- ② 労働問題を社会一般に敷衍して論じる
- ③ ビルの屋上から市内を敷衍して見る
- ④ 読んだ本の内容を短く敷衍して話す
- ⑤ 契約書を勝手に敷衍して解釈する

・・・英国では、一九九七年、ブレア政権の誕生に伴い創造産業の振興を重点政策として積極的に推進した。なお、ここで言う創造産業とは、「個人の創造力や技術、才能を活用し、知的財産の創出と市場開発をとおして知財と雇用を生み出す可能性を有する産業群」と定義される。

英国で創造性と経済が融合したのは、アーツ・カウンシル・イングランド (Arts Council England) 以下、ACE) が国勢調査のビッグデータの分析から得られたある結果に着目したことからであった。一九九六年、英国の文化振興を担う機関であるACEは、一九八一年から一九九一年の一〇年間にわたる国勢調査をもとに芸術文化セクターに従事している人口を割り出した。その結果、他のセクターと比較し、芸術文化セクターの人口は三四パーセントという飛躍的に高い増加率を示していることが判明した。この調査結果は、経済学的に **A** できない数字であると判断された。次に、創造的な仕事に従事している人口を改めてマッピングする調査が実施された。一九九七年、政権交代を果たした労働党のブレア政権の初代文化メディア・スポーツ大臣に就任したクリス・スミスの指示により「創造産業タスクフォース」が編成され、詳細な調査が行われた。その結果、英国のGDPの四パーセントを創造産業群が占めるようになっていたことが判明し、有望な経済分野であることが改めて認識されたのである。

英国政府が二一世紀の産業として創造産業を重視したもう一つの要因には、ものづくりなどの技術力などでは日本や米国などのレベルの高さに英国はもはや太刀打ちできないという現状認識があり、他方、ビートルズを先駆として世界に受け入れられている英国の音楽産業、あるいはターナー賞を受賞したダミアン・ハーストラ台頭する若手アーティストたち、『フリーズ (Frieze Magazine)』などの斬新な雑誌レイアウトなど、英国のアーティストやデザイナーが世界から注目されるようになっていたことなどが挙げられる。当時、四三歳で首相に就任したトニー・ブレアは、保守党から労働党への政権交代に伴う「新

生英国」のイメージを求めていたこともあり、また用語としても新鮮な、芸術文化を中心とする創造産業のイメージは **B** にかなっていたのである。ここで言う、創造力とは、アイデンティティ、自己達成感、社会的包摂、チャレンジ、用の美などの広い意味が含まれており、これこそが市民社会の形成に必要な要素と考えられていた。「創造力」の養成は積極的に教育にも取り入れられ、経済力を測るバロメーターとしても考えられるようになったのである。

B この創造産業を推奨する上で、**B** 省庁の枠を取り払って総合的な政策を講じる必要があることから、文化メディア・スポーツ省をはじめとして複数の省庁が関わって組織横断的に施策が実施された。二一世紀という経済競争が激化する時代にあつて、新たな英国の経済を **C** する産業として、①広告、②映像・ビデオ、③建築、④美術・アンティーク市場、⑤舞台美術、⑥出版、⑦工芸、⑧ソフトウェア、⑨デザイン、⑩コンピューター・ゲーム、⑪テレビ・ラジオ、⑫ファッション・デザイン、⑬音楽といった二三の産業分野が、「創造産業」として認知されたのである。

文化メディア・スポーツ省の数ある政策の中でも、最も重要な政策として創造産業の振興が謳われ、教育現場とも連携して次世代を担う人材育成を推進している。創造産業の中では、美術館や博物館は、上記の④美術・アンティーク市場の分野に位置づけられ、観光産業としても大きな役割を果たしている。特に、ロンドンを訪れる多くの観光客にとって美術館・博物館、音楽、演劇、オペラ、ミュージカルなどのエンターテイメントを見ることは、観光の大きな魅力の一つである。文化観光という観点からもその存在は **A** できないものとなっており、美術館・博物館や劇場への支援と投資が積極的に行われている。この創造産業を推進したのがブレア首相であり、アフタヌンティーとロイヤルファミリーに代表される伝統的な英国のイメージから、先端的でスタイリッシュな文化を生み出すクールな英国というイメージへの転換を図ることが外交政策として展開された。そして英国の創造産業を対外的にも積極的に推進していき、このイメージ戦略において創造産業は大きな役割を果たし、世界の多くの国々が追随した。

問一 範囲 A の内容に合致している選択肢として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 芸術文化セクターの人口が多いと思われるので国勢調査が実施された。
- イ 労働者人口の多い分野は経済の発展が期待できる。
- ウ 国勢調査を受けて文化メディア・スポーツ省が創設された。
- エ 一九八一年から九一年に創造産業群は GDP の四パーセントに達していたと考えられる。
- オ 創造性が経済的な利益をもたらすようになった時期は一九九七年以降である。

問二

A

B

C

 のそれぞれに入る最も適切な語句を、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|------|
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>A</td></tr></table> | A | ア 看過 | イ 看視 | ウ 看守 | エ 看破 | オ 看護 |
| A | | | | | | |
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>B</td></tr></table> | B | ア 時下 | イ 往時 | ウ 時劫 | エ 暫時 | オ 時宜 |
| B | | | | | | |
| <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td>C</td></tr></table> | C | ア 追従 | イ 離散 | ウ 接続 | エ 牽引 | オ 拮抗 |
| C | | | | | | |

問三 傍線部 B 「省庁の枠を取り払って総合的な政策を講じる必要」があつたのはなぜか。筆者が「文化メディア・スポーツ省」に注目していることをふまえて三〇字以内で述べなさい。

問四 傍線部 C 「イメージの転換」とはどのような変化かを四〇字以内で述べなさい。

問五 筆者が指摘している創造産業について最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 創造産業は個人の創造力を活用するため、その振興には政府の大胆な構造改革が必要であった。
- イ 創造産業は製造業を中心に行っているため、自己達成感を含めた創造力が重要であった。
- ウ 英国のアーティストが国際的に評価されているため、美術館はその作品を展示して観光に活かしている。
- エ 創造産業は広告やデザイン、音楽の最先端の流行を作り出すものであるため、油絵や彫刻といった伝統的な芸術とは区別される。
- オ 文化メディア・スポーツ省は創造産業を振興しているため、比較的若い職員によって運営され、次世代の教育にも取り組んでいる。

三 次の文章を読んで設問に答えなさい。

「わかる」とは何か

「わかる」という言葉は原初的な言葉であって定義できない、という人がいる。しかし、ここでは、あえて定義をする。その理由は後に明らかになる。原初的な言葉を考えるときの常道にしたがって、「わかる」の使い方をいくつか掲げる。

「わかった」で有名なアルキメデスの逸話がある。アルキメデスはヒエロン王に、王冠が純金かどうかの鑑定を頼まれた。比重を測定できればそれはわかる。王冠の重量は容易に測れるが、体積を測る方法が思い付かない。ある日、彼は、浴槽に浸かって湯が溢れ出し体が軽くなることを感じたとき、「ユーレカ、ユーレカ（わかった、わかった）」と叫びながら裸で街を走ったという。「自分の体重が水の中で軽くなる」という経験から「水の中の物体はそれが排除した体積の水の目方だけ軽くなる」ことに気付き、経験していない王冠の体積を予測できることに思い至ったとき、彼は「わかった」のである。

経験した事柄を記憶しているだけでは「わかった」とはいわない。たとえば、八十六〇一四を覚えていただけでは、足し算が「わかった」とはいわない。教えられた八十六〇一四を計算する仕方を用いて、未経験である演習問題七十九〇？の答が予測できたときに足し算が「わかった」という。

他人のことが「わかる」のも同様である。佐藤さんとの交際の経験から、佐藤さんがある状況の下でとる行動が「予測できるようにになった」とき、佐藤さんのことが「わかった」という。予測が難しい人を「わからない人だ」という。

自分で体験する、他人の体験を告げられる、および多くの人の経験を集約して教えられることを、まとめて「経験する」といおう。これを用いて、「わかる」ことを「経験した事柄にもつづいて、経験していない事柄について予測できるようになる」こと、と定義する。そして、この定義の下で、「知」を「わかること」、「知識」を「わかったこと」、「そして「知能」を「わかる能力」とする。

オーギュスト・コントはわかることの目的を、予測できるようになること、としている。ここでは、予測できることを、わかることの目的ではなく、わかることそのものであるとする。

生き残る能力

「わかる」ことは、生物の個体が生き残る上で有利な能力である。ある事柄が起きてからそれに対応して行動するより、その事柄が起きることを予測して行動する方が生き延びる機会が大きいからである。この意味で、知能はヒトに固有ではない。

池のコイは人影を見ると岸辺に集まってくる。人影が餌につながることを予測している。人影でなくて人形でもよいかもしれない。しかし、樹影では反応はない。この区別のもとで、コイは人影が「わかって」いる。ネズミの知恵はさらに高度である。どんなネコがどんな姿で現われても、それをネコと判断しその行動を予測して逃げ出す。その能力が高いネズミは生き延びる機会が大きく、低いネズミは子孫が絶える機会が大きい。カラスの知恵になるとヒトのそれと競うほどである。都会ごみのカラス対策にはヒトが頭を痛めている。

これらの例に見るように、わかることには生物の個体の生き残りがかかっている。現存しているあるレベル以上の生物種は、このような「わかる」能力についての淘汰の過程を経て生き残ってきた種である。「わかる」ことは遺伝子由来の能力である。「わかる」ことが原初的である所以である。

世界の秩序とモデル

経験にもつづいて未経験のことを予測できる、ということとは、対象世界が全く「でたらめ」ではなく、そこで起きる事柄の間に因果関係があること、すなわち、世界に秩序が存在すること、を意味する。全くでたらめであれば、これまでの事柄とこれからの事柄には全く関係がないので、予測できないし予測しても意味がない。わかるのは、そしてわかることに意味があるのは、世界に秩序があるからである。

予測できるためには、対象世界の秩序を認識し、その秩序を表現した世界の像を自分の中にもたねばならない。世界の秩序

を現した像を「モデル」と呼ぼう。経験したことから(①)を認識し、それを(②)するモデルを作り、そのモデルを使って未経験のことを(③)するのが「わかる」である。

世界に秩序があり、事柄の間に因果関係があると思うのは、生物種の遺伝子由来の能力の一つのようである。ヒトに限らず、ハト、ネズミおよびサルについても実験的に確認されている。ヒトは、実際には因果関係のない事柄の間にも因果関係があると思うほど、その存在を信じ込む。虫の知らせ、星占い、血液型と性格など、その例は数多い。ヒトに関する限り、世界の秩序の認識は過剰ではあっても不足ではない、といえる。

世界が秩序をもつと考えるかどうか、秩序をもつとしてその秩序がどんな性質をもつと考えるかを「世界観」と呼ぼう。世界観は、世界の秩序を認識してモデルを作る上で重要な意味を持つ。世界観の相違は、知の形態の相違を生み出す。

モデルは経験した事柄にもとづいて作られる。しかし、それは経験の羅列ではない。それでは未経験のことを予測できない。経験した事柄を未経験の事柄を含む因果関係に一般化してモデルを作ることにより、予測が可能になる。

モデルで予測した結果と実際に起きた事柄の両方を見ることも一種の経験である。この経験は当然モデルに取り込まれる。予測と実際が一致したときには、その予測に寄与した因果関係は、予測に有効な因果関係として重視される。一致しないときには、予測を与えた因果関係は軽視または排除され、新たな経験をとり込んで新しい因果関係が作り込まれモデルが修正される。

(市川惇信『暴走する科学技術文明』岩波書店、2000より)

問一 本文を読み、アルキメデスはどのような方法で王冠の体積を予測したのか、四〇字以内で述べなさい。

問二 傍線部 A の①～③に入る語句の組み合わせとして最も適切な選択肢を、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------|-------|-------|
| ア | ① 能力 | ② 一般化 | ③ 表現 |
| イ | ① 知の形態 | ② 認識 | ③ 秩序化 |
| ウ | ① 世界観 | ② 検証 | ③ 確認 |
| エ | ① 秩序 | ② 表現 | ③ 予測 |
| オ | ① 因果関係 | ② 点検 | ③ 定義 |

問三 以下のア～オの文を読み、文章が説明している内容と合致していれば○、合致していなければ×と答えなさい。

- ア. わかる能力はヒトだけが持っているものではない。
- イ. ヒトは世界を秩序あるものと考え、因果関係が必ずしも存在しない事柄が世界には存在する。
- ウ. 経験したことをできるだけ多く認識して、それらの間に存在する因果関係を考察することが世界観の形成である。
- エ. 生物は経験から生き残る能力を身につけるが、その能力は個体により相違する。
- オ. ヒトは経験を積むことにより、「わかる」ことができるようになる。

問四 文章全体の内容から考えて、文章が主張している「わかる」「わかった」の例文として不適切な選択肢を、次のア～オから選び、記号で答えなさい。解答は一つとは限らない。

- ア. 医者の説明は専門用語が多くてよく理解できなかったが、兄の表情から母親の病状が危機的であることがわかった。
- イ. 突然新聞各社に記者会見をおこなうことが伝えられ、明日の午後に首相はアメリカに出發することがわかった。
- ウ. この場所はこれまで水没したことはないという役場の職員の説明を聞き、なぜこの場所が避難場所に指定されたのかわかった。
- エ. 台風が上陸したため、朝から猛烈な雨風であった。私はカーラジオで交通情報を聞き、国道が通行止めになっていくという状況がわかった。
- オ. 作業場は混乱を極めていた。複数の工程を同時に進めたことから、多数の技術者が作業することになった。私は取り敢えず、わかることから作業を始めた。

問五 因果関係を予測できる精度の高いモデルを作るには、どのようにする必要があるのでか、五〇字以内で述べなさい。

(問題終わり)